



# いのきちゃん

井の頭

吉祥寺

9号  
2013年3・4月号

2013年(平成25年)3月1日

●編集・発行  
いのきちゃん編集委員会  
編集長 川井信良  
東京都三鷹市上連倉 1-12-17  
株式会社文伸 発行  
電話 0422-60-2211  
FAX 0422-60-2200  
メール inokichi@bun-shin.co.jp

●協力  
東京都西部公園緑地事務所  
東京都井の頭自然文化園  
井の頭恩賜公園100周年実行委員会  
NPO 法人みかか都市観光協会  
武蔵野市観光推進機構

●制作支援  
株式会社文伸 / ふんしん出版

連載絵本 カメ吉の巻 その1

井の頭恩賜公園  
開園100周年まで  
あと4年2ヵ月

せのうさちこ 1975年 盛岡市で生まれる。小6で三鷹へ転校。アニメ動画から絵本に進む。三鷹市在住。

## 井の頭自然文化園

## 企画展

●「ありがとう 熱帯鳥温室—since1962」  
熱帯鳥温室は長い時を経て、老朽化が進み、近いうちに引退の時期を迎えます。そこで、50周年を迎えた熱帯鳥温室にこれまでの感謝を込めて企画展を開催します。

2012年12月18日(火)～2013年3月31日(日)  
場所：動物園(本園) 熱帯鳥温室1階

## ★開園時間1時間延長

ゆっくり楽しんでいただけるよう開園時間を延長します。  
(入園5時まで、閉園6時)  
3月30日(土)、31日(日)、5月3日(金・祝)～6日(月・祝)

## ★無料開園

どなたでも入園料無料でお入りになります。  
5月4日(土)みどりの日、17日(金)開園記念日

詳しくはホームページをご覧ください。http://www.tokyo-zoo.net/zoo/inno/index.html

## 井の頭かんざつ会

- 第94回「樹形と樹皮」 3月24日(日)10:00～12:00
- 第95回「花」 4月21日(日)10:00～12:00
- 第96回「野鳥」 5月3日(金・祝)早朝(時間未定)

事前申し込みが必要です。  
詳細や申し込み方法はHP <http://www.kansatsukai.net/> に載せます。

アートマーケットと  
アスアーティストな人々おもちゃのマイクで呼び掛ける  
ちーちゃんさん

## ちーちゃんさん(人形劇)

あんぐりと大きな口を開けた男の子、よしお君の口が人形劇の舞台です。よしお君はバナナやチョコレートなどの甘いものが大好き。おやつをいっぱい食べたら、そのまま眠ってしまいました。

「よしお君は大切なことを忘れていきます。それは何でしょう」とちーちゃんさんが尋ねると、見ていた子どもたちが「はみがきー!」と声をそろえました。口のなかでは虫歯菌が大暴れ。そこに登場したはみがきマンが、虫歯菌をやっつけてしまいました。

ちーちゃんさんは人形劇団から独立して3年、いまはフリーの人形遣いとして舞台上立つほか、井の頭公園で「はみがきマン」を上演しています。人形のなかで人形劇が行われるユニークな設定の舞台や登場する人形はすべてちーちゃんさんの手作りです。以前に保育園で働いていた経験から、「子どもたちが楽しみながらためになる人形劇にしたい。お父さん、お母さんにも見ていただきたい」と話します。

虫歯菌の親子に  
子どもたちの目はくき付け

小田原 澪 (おだわら みお) 編集者・ライター。フィールドは多摩。三鷹市在住。

アートマーケットは、主に土日祝日に開催しています。  
※3/17・23・24・30・31 4/6・7・13は開催しません。特例で4/30(火)は開催します。

今月の  
はな子

## “はな子”66歳のお祝い会

アジアゾウの“はな子”は、今年、66歳になりました。人の66歳はめずらしくありませんが、日本の動物園のゾウでは最長寿記録です。去る1月20日、800人もの来園者のみなさまとともに66歳をお祝いする会を開催しました。ご公務でお忙しい中、会には邑上守正武蔵野市長、清原慶子三鷹市長、タイ王国大使館臨時代理大使も参加していただきました。さらに特別ゲストがはるばるタイから駆け付けてくれました。1949年に日本に“はな子”を贈ってくれた恩人ソムアン・サラサスさんの息子さんであるシナヴァスさんご一家です。はな子の元気な様子を見てシナヴァスさんは、はな子がますます長生きしてタイと日本の友好に貢献してほしいとおっしゃっていました。

井の頭自然文化園 園長 成島悦雄

800人ものお客さんが  
かけつけてくれました

お祝い会のケーキを食べるはな子

【いのけん】講座  
答え合わせ

- 問題1  
3) 70年
- 問題2  
3) 15m

1962年にオープンした井の頭自然文化園「熱帯鳥温室」は老朽化が進み、近いうちに引退する予定です。3月31日まで「ありがとう 熱帯鳥温室—since1962」が開催中。

カイツブリが1羽だった井の頭池に、昨年末ごろカップルと若鳥がやって来ました。飛来はその後も続き、1月21日にはさらに2羽増えていました。お茶の水池を縄張りにしたカップルに追い払われ、他の4羽はポート池と弁天池で暮らしていました。冬越しのために滞在するカイツブリは縄張り意識を持たないので共存が可能です。6羽で頑張っているが、彼らはやはり在来生物が好きなので、捕まっているのは主にこちらでした。

2月10日の調査では、冬越し組のうち2羽が姿を消し、カップルは行動範囲をポート池の中ほどまで広げていました。カップルの仲は良いようですが、築に子育てができるほどの在来生物が池にいません。

定着カイツブリがいなくなって分かったのは、じつに多くのカイツブリが新天地を求めて移動していることでした。彼らは皆、井の頭池が良くなるのを待っています。



カップルのオス

井の頭かんざつ会 田中 利秋 <http://homepage2.nifty.com/tnt-lab/>

カントウタンポポ

## 在来種の生える場所

ポピュラーな野草ですが、花と綿帽子(果実の集まり)の時期以外の姿を知る人は多くありません。年間を通して観察すれば、この草の生きる工夫の数々が見えてきます。冬のタンポポは右の写真のように地面に平たく葉を広げています。周りに日光を遮る草がない間に光合成をして養分を根に蓄えるのです。その中心ではつぼみが徐々に育っています。春、葉が起き上がり、膨らんだつぼみを付けた花茎が葉よりも高く伸びます。虫に花を目立たせ花粉を運んでもらう

ためです。その花が終わると花茎は折れ曲がり、大切な先端を低い位置に隠します。種が熟すと花茎は再び上へと伸び、綿帽子を花のときよりも高く掲げて種を風に任せます。周りの草が茂るころタンポポは葉を落とし休眠に入ります。根の養分で再び葉を出すのは、周りの草が枯れる晩秋です。風で散布された種が発芽するのもそのころです。それが、長い茎を持たない草、タンポポの生き方です。もっともそれはカントウタンポポと呼ばれる在来種の話です。

セイヨウタンポポなどの外来種は草にも種にも夏眠する習性がないため、周りの草に光を奪われる場所では生きられません。その代わりに、たくさんの軽量の種を受粉なしで作ることができるので、背の高い草が生えない道ばたや広場に進入できます。井の頭公園に外来タンポポが多いのは、そういう環境が多いからです。外来種はつぼみの総苞片(ガクのように見えるもの)が反り返るので見分けられます。なお近年の研究で、外来種に見えるタンポポのほとんどに在来種の遺伝子が混じっていることが分かったそうです。

井の頭公園でカントウタンポポが多く見られるのは、夕やけ橋上流の三角広場の対岸です。隣接するマンションの敷地にたくさん残っていたため、そこから種が飛んで来たのです。しかし在来タンポポが生えられる場所は減り続けています。昔ながらの環境を残す役割を今後は公園が担ってほしいと思います。



冬のタンポポ

## 09

## 新天地を求めて

楽園はよみがえるか!



カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる。小さな水鳥です。池や川にカップルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。

# 江戸時代の井の頭、桜の花は咲いていた？

井の頭公園といえば、都内有数の桜の名所。七井橋の東側の「ポート池」を染井吉野がぐるりと囲み、水面が桜色に染まります。その幽玄な光景に惹きつけられ、近隣はもとより遠方からもたくさんの方が訪れ、日夜たいそう賑わいます。そんな井の頭名物の桜ですが、江戸時代はどうだったのでしょうか？



▲毎年、お花見客で賑わう井の頭池周辺。

▲府中市郷土の森博物館所蔵の「小金井府中六社井の頭弁天画帖」の三連作の一枚「井の頭」。作者不明。「安政三丙辰年（1856）三月十六日」の日付。



寛永十三年、井之頭弁天堂の境内に日本の桜を植えたのは、三代將軍の徳川家光。寛永八年の早魃（かんぱつ）の水加持で御利益があり、宮社を建てて桜も植えたというのです。神田御上水源井之頭弁財天略縁起」に記されています。

『略縁起』は弁財天の持ち寺である大盛寺の私的な記録で公的な史実とはみなされませんが、井の頭の桜に触れた最も古い記述です。寛永十五年（1738）に記されたことになっています。

当時の「境内」の範囲が分からないので単純に比較できませんが、現在約450本（西部公園緑地事務所2009年調）の四分の一弱といえ、充分に見ええがあったことでしょう。

ところが、江戸時代の書物はいくつも紐解いても、桜の記述は見あたりません。大田南畝の『遊井頭源記』しか、古河吉松軒の『四神地名録』しか、斎藤幸成の『江戸名所図会』しか。歌川広重が残した井の頭弁天の浮世絵2枚にも、いずれも桜は描かれていません。

私が探した範囲ですが、唯一見つけたのは、府中市郷土の森博物館所蔵の『小金井府中六社井の頭弁天画帖』の三連作の一枚「井の頭」です。現在は大盛寺が建っている丘に、花盛りの桜が点々と描かれています。

現在主流の染井吉野は、幕末から明治にかけて人工的に開発されて広まったので、家光が植えたのは山桜の種類だったと推測されます。その寿命は150〜200年なので、ここに描かれている桜は、家光が植えたものだったかもしれません。ちなみに四月の十五日に一番近い日曜日に弁天堂で行われる「大祭」も、家光の水加持以来続く伝統的な行事です。今年（巳年、十二年）に一度の弁天堂の「開帳」もあります。お見逃しなく！

安田知代（ゆすたともよ）  
編集者・ライター。五の頭公園\*まじごとガイドブック「五の頭の森」の監修。  
古河吉松軒の「40年」編纂。

## 私と井の頭公園 その9

### ジョギングと犬の散歩とゴミ拾い 一石三鳥と言う元世界チャンプ

輪島功一（三鷹市在住）

井の頭公園でゴミを拾いながらジョギングしている元世界チャンプを見た人は多い。元プロボクサーの輪島功一さん（69歳）だ。1977（昭和52）年、三鷹市牟礼に新居を構えてから井の頭公園がジョギングのコースとなった。

ボクシングをやめて、急に何もしなくなるとダメなんだよ。徐々に体を慣らしながら落としていかなければ。それで、犬の散歩と合わせてジョギングを始めたんだよ。ついでにゴミ拾いもね。これを「一石三鳥」言っているんだ。ハハハ。

始めた当時はゴミが多くてね。3袋ぐらいすべ一杯になった。公園にゴミ箱があった頃はそこに捨てただけで、ついでの間がゴミ箱が無くなってね、家庭のゴミを捨てる馬鹿野郎がいるせいで無へしてらしてあげてそれからは自宅まで持って帰っているよ。でも最近ではゴミが減ったね。ゴミに関しては世の中がいい方に変わったな。

私はね、何事も基本が大事だと思うんだよ。人生の基本、仕事の基本ね。人のせいにして自分で出来ることは自分でする。昔からの言い伝えを守る。学歴で勝負しない。親は子どもをしっかりと躾ける。そういうことを皆に言っているんだよ。今、そういうことを言う人や態度で示す人があまりいなくなっちゃった。

だいぶ前だけど、玉川上水に道路を作るという計画（注1）があって、言っちゃったんだよ。こんないいところに道路を作るなバカヤロー、金儲けばかり考えるな」ってね。井の頭公園や玉川上水は大事にしな。都会の中のいい所なんだから。ゴミ拾いもそういう流れなんだ。ただ、犬（注2）が死んでしまっって、前はびびりやなへなへだった。（談）



（元）プロボクシングWBA・WBCスーパーウェルター級世界チャンピオン、現在 輪島功一スポーツジム会長）  
（文・写真 川井信良）

（注1）1980（昭和54）年、淀橋浄水場の廃止により、玉川上水の一部が暗渠化されたり、道路や駐輪場にするという計画が出てきました。そのような動きに対して、流域各地で住民による玉川上水の保全運動が始まりました。

（注2）いつも一緒にジョギングしていたシェパード犬「チカ」が2013年1月に亡くなる。11歳6ヵ月。



写真 古賀 親宗（こが ちかむね）  
1983年 福岡県柳川市生まれ。三鷹市在住のフォトグラファー。

## 『いのきちさん』について

都立井の頭恩賜公園が2017年5月に開園100周年を迎えます。『いのきちさん』は、もうすぐ100歳を迎える井の頭公園に、感謝の気持ちを含めて、地域の市民と企業と団体の協力により発行された100周年カウントダウン新聞です。名称は井の頭公園の「いの」、隣接する吉祥寺の「きち」、井の頭池が市内となる三鷹市の三「さん」を並べたものです。（奇数月1日の隔月発行です）



「いのきちさん」のホームページができました！更新中！  
<http://www.inokichisan.com/>



スマートフォン対応

「いのきちさん」の感想やお問合せはメールでも受付けています。  
✉ [inokichi@bun-shin.co.jp](mailto:inokichi@bun-shin.co.jp)

「いのきちさん」を置いていただける所を募集しています。



▲2012年12月20日  
「よみがえれ井の頭池！かいぼりの実施に向けた検討会第1回」

よみがえれ！井の頭池 9

## 地域の人たちとの連携で「かいぼり」計画を検討

これまでこのコーナーでお伝えしてきたように、井の頭池の水を抜き、外来種の生物を取り除く「かいぼり」が平成25年度の冬場に予定されています。その実施に向けて昨年末、公園をフィールドに活動している市民団体や周囲の町会などの方々が集い、第一回「検討会」が開かれました。

今回の「かいぼり」は西部公園緑地事務所が、地域の方々と丁寧に合意を形成しながら一緒に実現していくことを基本としています。今後も「検討会」を重ねながら実施していく予定です。

昨年末の「検討会」では、参加者から共感や前向きな意見が寄せられるとともに、自然の力をかりて池の浄化を進めていくイメージの共有もできたとのこと。

江戸時代の水道だった神田川への影響も考慮しつつ、具体的な日程やプログラムを組み立てていくそうです。

第2回井の頭公園検定（いのけん）が、今年の12月に開催されます。事前に対策講座も開かれますが、講座内容や試験日時等の詳細は後日発表されますので、ご確認ください。

## 『いのけん』（井の頭公園検定）講座

- 問題1 もうすぐ井の頭公園のサクラの開花シーズンを迎えます。ところで園内には500本ほどのサクラの木がありますが、それらの樹齢はどのくらいでしょうか？  
1) 30年 2) 50年 3) 70年 4) 100年
- 問題2 井の頭自然文化園「熱帯鳥温室」のガラス張りの天井の高さは何mくらいあるでしょうか？  
1) 5m 2) 10m 3) 15m 4) 20m

答えは裏の面にあります。

